

令和2年名古屋港の港勢

令和2年（2020年）の名古屋港の港勢は、入港船舶隻数、船舶総トン数ともに前年実績を下回り、総取扱貨物量も前年実績を下回りました。

1 入港船舶

入港隻数は29,243隻（前年比10.2%減）、総トン数は2億1,077万トン（同9.8%減）とともに前年実績を下回りました。

○ 外航船舶

入港隻数は7,168隻（同7.5%減）、総トン数は1億7,221万トン（同10.5%減）とともに前年実績を下回りました。全体の5割以上を占めるコンテナ船においても、入港隻数は3,833隻（同4.0%減）、総トン数は8,207万トン（同5.7%減）と入港隻数、総トン数ともに前年実績を下回りました。

○ 内航船舶

入港隻数は、22,075隻（同11.1%減）、総トン数が3,856万トン（同6.7%減）と入港隻数、総トン数ともに前年実績を下回りました。

2 海上出入貨物

令和2年の総取扱貨物量は、1億6,855万トン（前年比13.3%減）と前年実績を下回りましたが、平成14年から19年連続で全国1位になりました。

また、総取扱貨物量のうち外貿貨物取扱量については、1億762万トン（同14.8%減）と前年実績を下回りましたが、平成12年から21年連続で全国1位になりました。

○ 外貿貨物

輸出貨物量は、4,105万トン（同22.3%減）と前年実績を下回りました。取扱貨物の上位品種には、完成自動車、自動車部品、産業機械といったこの地方で生産される代表的な品種が挙げられ、特に完成自動車、自動車部品の上位2品種で輸出全体の6割以上を占めています。国・地域別では1位が中国で591万トン、以下2位アメリカ335万トン、3位アラブ首長国290万トン、4位オーストラリア230万トン、5位タイ198万トンです。

輸入貨物量は、6,657万トン（同9.5%減）と前年実績を下回りました。取扱貨物の上位品種には、LNG（液化天然ガス）、鉄鉱石、原油、石炭といった天然資源が挙げられ、輸入全体の6割近くを占めています。国・地域別では、1位がオーストラリアで1,298万トン、以下2位中国1,207万トン、3位アメリカ576万トン、4位カタール397万トン、5位マレーシア381万トンです。

○ 内貿貨物

移出貨物量は、3,207 万トン（前年比 10.3%減）と前年実績を下回りました。取扱貨物の上位品種を、完成自動車、鉄鋼、揮発油、その他の石油、重油が占めました。移入貨物量は、2,885 万トン（同 10.7%減）と前年実績を下回りました。取扱貨物の上位品種を、完成自動車、鋼材、セメント、化学薬品、揮発油が占めました。

○ 外貿コンテナ貨物

外貿コンテナ貨物量は、4,142 万トン（同 13.9%減）、コンテナ個数は 230 万 TEU（同 13.1%減）とともに前年実績を下回りました。

輸出入別で見ると、輸出は 2,002 万トン（同 16.7%減）、輸入は 2,140 万トン（同 11.0%減）とともに前年実績を下回りました。

品種別では、輸出は自動車部品、産業機械、その他化学工業品、完成自動車、ゴム製品が上位を占め、輸入は衣服・身廻品・はきもの、自動車部品、輸送用容器、電気機械、その他化学工業品が上位を占めました。

国・地域別では、輸出は、1 位が中国で 455 万トン、以下 2 位アメリカ 290 万トン、3 位タイ 131 万トン、4 位ベトナム 94 万トン、5 位台湾 91 万トンです。輸入は、1 位が中国で 954 万トン、以下 2 位ベトナム 145 万トン、3 位台湾 127 万トン、4 位アメリカ 124 万トン、5 位タイ 121 万トンです。